



「知識」と「感性」を駆使し、 己の道を力強く切り開く

岩手県立農業大学校 校長 小原 繁

岩手県立農業大学校 農産園芸学科及び畜産学科の課程を修了した50名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが晴れて卒業を迎えられたのは、何よりも皆さん自身の努力と研鑽の賜物ですが、ご家族や、指導に携わった担任や教授、そして友人からの助言や励ましがあったからだと思います。

皆さんが在学した2年間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、厳しい制約がありました。特に寮内での感染防止のため、学生同士の交流も控えるようお願いしたこともありました。学習面においては、海外農業研修など教育プログラムの中止や変更があり、たいへん残念に感じた部分もあったと思います。

こうした困難な状況をしっかり乗り越えた皆さんは、4月からそれぞれの道を歩んでいくことになります。

現在、農業を取り巻く環境は、農村における人口減少、毎年のように起きる大規模な気象災害の発生、新型コロナに起因すると思われる消費の減退と価格の下落、そして国際状況による燃油・資材の高騰など、先行きが見通せない状況にあります。

このような中、自らの夢の実現に向けた本当の意味での「第一歩」を歩み始めることになります。時として困難なことに遭遇することもあるでしょう。

皆さんは、高村光太郎の作品「道程」の一節 「僕の前に道はない。僕の後ろに道はできる」という言葉で本校に迎えられました。この二年間で、ご自身が磨いた「知識」と「感性」を駆使し、己の道を力強く切り開いていくことを心から祈念いたします。

令和4年度卒業式挙行



令和5年3月8日に、令和4年度の卒業式が挙行され、本科生50名（農産経営科8名、野菜経営科14名、果樹経営科7名、花き経営科4名、酪農経営科4名、肉畜経営科13名）に卒業証書が授与されました。

校長賞等の表彰、校長式辞、知事告辞、来賓祝辞の後、在校生代表小野寺千華さんからの送辞、卒業生代表懸田拓馬さんからの答辞、前学生自治会長遠藤巧夢さんから卒業記念品の贈呈がありました。

卒業生がそれぞれの道で活躍されることを在校生・職員一同大いに期待しています。

卒業生・担任からのメッセージ

農産経営科



【学生より】私は農大に入学して農業に関する多くのことを学ぶことができました。授業では座学だけではなく実践的な実習を通して、現場で必要となる技術を身につけることができました。ここで得た知識と技術を進学先でも活かしていきたいと思います。教職員の方々、経営科の皆さん、2年間ありがとうございました。（懸田拓馬）



卒業おめでとうございます。田畑で汗を流し技術を身に着けた2年間は、どんな道に進んだとしても役に立つものと思います。農大の仲間との絆を大切に。力強く羽ばたいてください。皆さんを心から応援しています。（仲條真介）

野菜経営科



【学生より】私は農大で、たくさんの専門的な知識や技術を学ぶことができました。仲間との授業では、毎日楽しく、時にハメを外した時もありましたが、充実した学校生活を送ることができました。皆川先生や佐藤先生、柄澤先生から学んだことを、卒業後の進路でも活かしていきたいと思います。2年間大変お世話になりました。

【担任より】

（大日向伯優）



卒業おめでとうございます。14名の個性豊かな皆さんは、野菜の栽培管理をはじめ、スポーツ大会、農大祭、資格取得など、充実した学生生活を送ってきました。新しいステージでも、存分に活躍されることを期待します。

（佐藤正昭、皆川歌織）

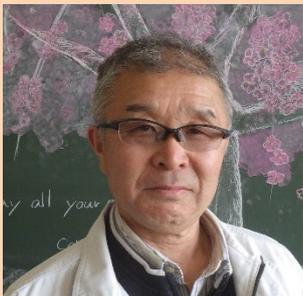
果樹経営科



【学生より】農大での生活はとても充実していてあっという間でした。農業について多くのことを学ぶことが出来ました。特に、果樹については実習を通して技術や知識を身につけることが出来ました。今後農大で得たことを活かしていきます。鈴木先生をはじめ、たくさんの先生方にお世話になりました。2年間ありがとうございました。

【担任より】

（千田なつ紀）



2年間お疲れ様でした。皆さんと一緒に過ごすことができたことは一生の思い出となります。ありがとうございました。更に成長した皆さんと、いつかまた会えることを楽しみにしています。卒業おめでとう！（鈴木哲）

花き経営科



【学生より】私たち花き経営科は、人数は少ないですが、個性的なメンバーで、充実した日々を過ごせました。三好先生、千葉先生をはじめ、私たちを支えてくれた先生方、大変お世話になりました。卒業後はそれぞれの道を歩みますが、いろいろな面から農業を盛り上げていきます。2年間ありがとうございました。

【担任より】

（佐藤順哉）



2年間ありがとうございました。みなさんと一緒に汗を流した日々はよい思い出です。4人仲良く、よく頑張りました。農大での経験を糧に、新しい道を地道に進んでいってください。応援しています。卒業おめでとう！！（三好智子）

酪農経営科



【学生より】私は、将来、酪農に関わる仕事に就きたいと思い、高校から酪農を学んできました。高校卒業後、就職先は北海道か東北を考え、本校に入学しました。ここでの2年間で様々なトラブルも経験しましたが、それらも乗り越え、来年は北海道に就職します。担任の川畑先生、山口先生をはじめ、多くの先生方には大変お世話になりました。

(田中峻清)

【担任より】



卒業おめでとうございます。個性豊かな4名の担任として、話題に事欠かない毎日を過ごすことができました。時間はあっという間に過ぎます。仕事、趣味、興味のあること何でも良いので、一所懸命に取り組んで下さい。期待しています！

(川畑洋)

肉畜経営科



【学生より】私たち肉畜経営科は、13名全員で賑やかに楽しく学生生活を送ることができました。農大の学習では、新たな牛の知識・技術を身に付けながら、多くの校外での成果発表で入賞するなど貴重な経験もたくさんできました。2年間でたくさんお世話になった学校の先生方、外部の先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

(高木月季)

【担任より】



『志に拠って立つ』

固い志に拠って立つ人は、目標へと続く道筋が眼前から消え去ることはありません。たとえ途中で躓いても、くじけても、また立ち上がって前へ前へと進むことができます。常に高い目標をもって自分の道を突き進んでください。

(児玉英樹)



東日本・全国を舞台にした活躍



★第33回ヤンマー学生懸賞論文・作文で銀賞と銅賞のダブル受賞！



「作文の部」において、本校酪農経営科2年の大井悠愛さんが銀賞を、果樹経営科1年の小野寺千華さんが銅賞をそれぞれ受賞しました。大井さんの作品「全ては「ピーチ」から」は、高校の部活で飼養していた母牛が、出産直後に突然死んだ経験をきっかけとして、農大で分娩後の酸化ストレス低減の研究を行っていることを綴っています。

小野寺さんの作品「農業を伝える」は、高校3年の時に、農業関係の仕事に就く人が少ないことに気づき、自分が「農業の魅力伝える人材になる」ことを将来目標として、農大でりんごの加工品の研究に取り組んでいることを綴っています。この受賞を機に、今後お二人がますます活躍されることを期待しています！

★東日本農業大学学校等プロジェクト意見発表会で最優秀賞受賞（福島,1月）

果樹経営科2年の小野寺拓真さんが「意見発表部門」に、肉畜経営科2年の佐藤瑠衣さん、果樹経営科2年の千葉あやのさん、肉畜経営科2年の竹田晴信さんが「プロジェクト発表部門」に出場しました。審査の結果、意見発表部門で小野寺さんが見事最優秀賞を受賞しました。

★全国農業大学学校プロジェクト意見発表会で優秀賞受賞

果樹経営科2年の小野寺拓真さんが「意見発表部門」に出場し、審査の結果、見事優良賞を受賞しました。

(東京,2月)



プロジェクト学習の成果発表!!

本校教育の主要な柱の一つであるプロジェクト学習の成果を発表する卒業研究成果全体発表会を12月16日に開催し、本科2年各経営科から選ばれた代表12名が1年間取り組んだ研究の成果を発表しました。

発表会は、本科2年の学生から選出された運営委員によって進められ、東京農業大学の門間敏行名誉教授を審査員長として、農業農村指導士協会、農業法人協会や県の農業関係機関等から選任された審査員により厳正な審査が行われ、最優秀賞1名、優秀賞2名が選ばれました。



最優秀賞

発酵飼料給与による黒毛和種子牛の発育向上
肉畜経営科2年
佐藤 瑠衣

1 課題選定理由

和牛繁殖経営において所得向上を図るためには、血統が優れ、かつ発育の良い子牛を生産することが重要である。子牛への給与飼料は、一般に乾草と配合飼料が給与されているが本試験ではコストの安い発酵飼料の給与により粗飼料採食量の増加を図り、子牛の発育向上とコスト削減に取り組むことを目的とした。

2 結果

発酵飼料給与群6頭の9か月齢時の平均体重は314.8kgであった。発酵飼料給与群の5～7か月齢の1日当たり増体量は1.15kgであり、配合飼料給与群の1.02kgより高い傾向を示した ($P<0.1$)。

発酵飼料給与群の去勢子牛1頭が、和牛子牛市場で100万円を超える価格で販売され、当日の最高値販売を記録した。子牛販売価格から飼料コストを差し引いた金額は、発酵飼料給与群が約11万4千円高くなった。

3 考察

配合飼料価格が高騰し、農家経営を圧迫していることから、発酵飼料給与割合を増やした試験を継続し、更なる飼料コスト削減を図ることが必要と考えられた。



写真 最高値販売した子牛(父牛:花安勝)



優秀賞

「ラ・フランス」の大玉化の検討と西洋ナシ乾燥果実の開発
果樹経営科2年
千葉 あやの

1 課題選定理由

小玉になりやすく生産性が低い西洋ナシ「ラ・フランス」の生果販売の単価向上のため、大玉化手法について検討した。また、追熟管理が難しく果実腐敗の多い西洋ナシに、付加価値を付け長期販売も可能とするため、乾燥果実の作成方法について検討した。

2 結果

切り戻し剪定を主とした強剪定、摘蕾など早期着果制限及び植調剤フルメット液剤散布による果実肥大効果が確認された。様々な方法による試作の結果、外観、食味とも優れた、消費者が求める乾燥果実を開発することができた。試算の結果、目標とする所得を得られる商品であることがわかった。

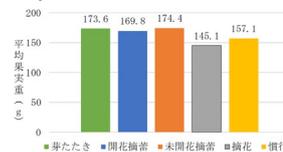


図1 着果制限法別果実重



写真1 完成した試作品

3 考察

本研究により得られた大玉化手法や乾燥果実の作成法は今後の私の農業経営に取入れるに値する技術だと考える。



優秀賞

エイジングシート活用による和牛肉の食味向上
肉畜経営科2年
竹田 晴信

1 課題選定理由

明治大学等が開発した肉の熟成を比較的簡易にできるエイジングシートを活用し、熟成日数の違いが和牛肉の食味やMUFA割合等に及ぼす影響を調査するとともに、熟成肉の品質保証基準についても検討を行い、安全で美味しい「熟成いわて牛」の作成について検討する。

2 結果

熟成肉と精肉の食味試験の結果、熟成肉が美味しいと評価した割合は、黒毛和種のモモ肉で81%、リブローズで64%、日本短角種のモモ肉で65%と過半数以上を占めた。また、熟成により脂肪の質と関係のあるMUFA割合は向上した。品質保証試験の結果、エイジングシートにより10日間熟成した和牛ブロック肉は、4℃で12日間保存可能であることが明らかとなった。



熟成前(和牛ロース)



10日間熟成後

3 考察

「熟成いわて牛」「熟成いわて短角牛」の2つのブランド牛の誕生により、停滞している牛肉の消費を拡大し、生産者への所得向上に繋げていきたい。

～ 今後の主な行事予定 ～

4月 6日(木) 始業式

4月 11日(火) 入学式

5月 19日(金) 父母の会理事会・総会

4月 10日(月) 新入生入寮

5月 17日(木) 学生自治会総会

// 父母等面談